

2026 年 10 月 13 日

各位

みさき投資株式会社

代表取締役 CEO&Co-CIO 吉原 正淑

代表取締役 Co-CIO&Head of Research 阪東 広太郎

新経営体制の発足及び社名変更に関するお知らせ

平素よりみさき投資に格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当社はこのたび、新経営体制のもとで新たな挑戦を開始するとともに、2026 年 12 月 1 日付で商号を「Dawnfield Capital 株式会社」に変更いたします(※1)。

新体制では、厳選した企業への集中投資と取締役会の意思決定への働きかけを通じて、企業変革を投資家の皆様へのリターンにつなげる、新たなファンドの組成を目指します。これまで培ってきた投資・エンゲージメントの知見を承継しつつ、投資戦略と組織体制を進化させてまいります。

1. 新経営体制の発足

新体制では、吉原正淑・阪東広太郎が経営を引き継ぎ、代表取締役に就任いたしました。会社経営全体は吉原が統括し、投資・エンゲージメントはこれまでその中核を担ってきた吉原と阪東が共同で統括します。また、過去に当社 COO を務めた青木賢次が 11 月より COO&CCO として復帰し、運用を支える業務基盤と管理体制を整備します。

今回の経営体制の移行及び社名変更の後も、当社は同一法人として事業を継続します。これまで当社が蓄積してきたトラックレコード、投資・エンゲージメントの知見や経営人材とのネットワークを活かしながら、投資戦略と組織体制を見直し、再出発いたします。

2. 社名変更について

2026 年 12 月 1 日付で、当社は商号を「Dawnfield Capital 株式会社」に変更いたします(※1)。Dawnfield は、dawn（夜明け）と field（場）を組み合わせた造語です。日本には、強い事業を持ちながら停滞し、次の成長局面という「夜明け」を迎えようとしている企業が数多く存在します。私たちの投資機会は、まさにその場に 있습니다。株主としてその夜明けに立ち会い、企業とともに変革を実現したいという思いを、社名に込めました。そのうえで、私たちが目指す姿を表したのが、新しいタグラインです。

Transform businesses. Improve performance. Build lasting value.

Through proactive ownership.

私たちは、能動的な株主として、取締役会レベルの重要な経営課題に向き合い、持続的な

企業価値の構築につながる取締役会の意思決定を後押しする存在を目指します。

※1 本商号変更は、株主総会において商号変更に係る定款変更が承認されることを条件とします。

3. 新ファンドの投資戦略

日本では、コーポレートガバナンス改革や政策保有株式の縮減を背景に、機関投資家が自らの判断に基づいて議決権を行使する動きが進んでいます。2026年7月に公表されたコーポレートガバナンス・コード改訂版や「成長投資ガイドンス」も、成長投資や事業ポートフォリオの見直しを含む経営資源配分を重視しています。株主が企業の変革を後押しできる環境は、かつてなく整いつつあります。また、投資家の皆様との対話では、事業を深く理解したうえで、いたずらに対立を演出するのではなく、経営陣との信頼関係を大切にしながらも、必要なときには経営体制の見直しを含む変革に踏み込む担い手を求める声を伺ってきました。これまで、吉原と阪東は、事業ポートフォリオ、経営資源の配分、経営体制といった課題について投資先の経営陣・取締役会と対話を重ね、株主としての提案が取締役会の意思決定を経て、実行に移される経験を積んできました。新ファンドの投資戦略は、この環境変化と、私たちの実践から得た知見を土台としています。

新ファンドでは「どこに投資するか」「どのように働きかけるか」「誰と連携するか」を投資戦略の3つの軸とします。

特徴① Hidden Quality：優れた事業を有しながら、戦略・資源配分に課題があり評価されていない企業に投資する

私たちが投資対象とするのは、世界で競争力を持つ技術・製品・顧客基盤がありながら、本来のポテンシャルが企業価値や株価に十分反映されていない企業です。とりわけ、複数の事業を抱える企業の中には、強い事業が生み出す資金や社内の人材が、成長性や資本効率の相対的に低い事業にとどまり、優れた事業の価値が全体の中に埋もれているケースが少なくありません。私たちは、こうした隠れたクオリティ企業に投資対象を絞り、大株主として一社ごとの調査とエンゲージメントに注力します。

特徴② Board Engagement：戦略・資源配分の対案を示し、取締役会の意思決定を後押しする

変革の必要性を指摘するだけでは、企業は変わりません。私たちは、「どのような戦略を取るか」と「誰がその実行を担うか」の両面で、具体的な対案を示します。戦略面では、事業ポートフォリオ、経営資源の配分、ガバナンスのあり方をゼロベースで捉え直した価値向上仮説を提示し、経営陣・取締役会との議論を通じて、その実現に必要な意思決定を後押しします。人材面では、必要に応じて、当社出身者や元投資先の経営陣など、これまで培ってきたネットワークを活かした候補者の提示も含め、価値向上への意欲と能力を持つ

社内外の人材が、取締役会や経営チームで力を発揮できる体制を提案します。提案後も進捗を確認し、進展が十分でない場合には、戦略や経営体制の再検討を求めます。

特徴③ Lead Investor：他の投資家とともに変革を加速する

企業の変革を単独の株主だけで実現することはできません。私たちは、投資先企業の株主である国内外の投資家との対話を通じて問題意識を共有し、必要な変革に関する幅広い理解と支持を形成していきます。

私たちが目指すのは、取締役会の意思決定の変化を、事業の成長と収益力の向上、そして市場評価の見直しにつなげることです。変革の入り口にある企業を見だし、その初動を後押しすることで、中長期的な投資リターンの創出を目指します。

4. 既存ファンドの終了と、新たな挑戦への決意

2026年8月にお知らせしたとおり、MISAKI ENGAGEMENT MASTER FUND は運用を終了し、すべてのお客様への資金の返還を完了しております。創業者退任後の新たな経営・投資体制について、既存のお客様との対話を重ねましたが、十分な信任をいただくには至らず、運用資産は大幅に縮小しました。この状況を受け、規模を縮小して運用を継続するのではなく、ご解約の意向を示されていなかったお客様も含め、すべてのお客様に資金をお返しし、既存ファンドを終了することが、創業者退任後の経営体制として最善と判断しました。

なお、その間、経営トップを務めた前代表取締役 CEO&CIO の麻生武男は、この結果を重く受け止め、経営の責任を明確にするため退任いたしました。

私たちは、今後のあり方をゼロベースで検討した結果、日本企業の変革を株主として加速する投資には、なお大きな意義と機会があると確信しました。また、当社が創業以来大切にしてきた「会社を一代で終わらせず、次の世代へ承継する」という思いも、私たち自身の挑戦として受け継ぎます。自ら資本を投じ、これまでの経験から学び、同じ失敗を繰り返さないという決意のもと、投資戦略と組織をつくり直し、新たな挑戦を始めます。

5. 結びに

これまで当社の歩みを支えてくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。新体制においても、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本件に関するお問い合わせ先：info@misaki-capital.com

以上